

山口県支部も、高齢化と共に参加者が少なくなっています。昨年度から、総会と云うよりは、江津工業卒業OB生の懇親会的な形に軌道修正をし進めております。

景気のいい話はありませんが、山口県支部総会に集まる人達は、かつて同じ釜の飯を味わった者同士です。酔いが回ると気心が一つになり、和気あいあいとなり大いに語り、若かりし頃の思い出を酒の肴とし、場はいつも盛り上がり、親睦を深めております。

これからも一同元気でいる限り、山口県支部総会を続けて行く所存です。

終わりに江工会本部の益々の発展と皆様方のご多幸をお祈りしております。



# 同窓会

## E四十江工会

### 「E四十江工会の活動内容」

寺田 昌 登

(電気科 昭和四十年卒業)



上氏が遠くから参加してくれ、廃線予定の三江線の沿線の話も聞くことが出来て皆よろこんでいました。

最初は七人くらいでしたが、今では参加してくれる人は十四名となりました。

平成三十年は卒業後五十三年目で会は十年目となりますが、島根県から茨城県までの友の都合を調整し、意見や要望を聴きながら楽しく長く開催していきたいと考えています。

夢は、江津市で昭和四十年電気科卒の同窓会に参加したいものだと思っています。また私一人になるまで会を開催していきたいと考えています。

## まめなか会

### 「同窓会」

(電気科 三十八年卒業)

還暦を期に始めたまめなか会(昭和三十八年卒業電気科三期)の第八回同窓会を三月二十九〜三十日四国松山道後温泉で開催しました。関東、中部、関西、中国、四国の各地から同窓生十一名(内二組が夫人同伴)が参集しました。

物故者十名(内直近二名)への黙祷の後、卒業以来二年ぶりの再会に尽きぬ話で夜半まで時を過ごしました。又、関東支部勝田君から母校の状況について紹介があり、一同厳しい状況と母校関係者のご努力を認識しました。既に七十二歳を超えましたが、現役の者、健康問題と向き合いながら生活している者と色々ですが、三年後の第九回(関東)に向けて気持ちを新たにしたい有意義な会となりました。

(写真は懇親会での集合写真)



## 関東部会

安 濃 善 文

(建築科 三十八年度卒業)

三十八回関東部会をしました。



## 事務局だより

平成二十九年一月〜十二月

### ◇二月二十日

会報五十一号発行

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現旧教職員、在校生、同窓会等に配布。

### ◇二月二十九日

新卒者入会式

江工会入会式(平成二十八年卒業生 七十九名)  
江工会会長 土井 正人

氏(工業化学科S三十九年卒)より式辞がありました。

### ◇四月十六日

山口県支部総会

湯田温泉「ホテルかめ福」大屋 節雄(工化科S三十八年卒)支部長はじめ十七名の会員の出席。  
今年度より泊付での総会

を実施。また、九州支部が、平成二十九年二月を持って解散し、山口県支部の下関地区に編入し、関門地区となった。

総会では、前年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や予算についての審議がありました。また、泊付での総会について意見の集約、来年度の総会担当地区の関門地区に引継ぎが行われました。懇親会では、応援歌、校歌を歌い、盛り上がった会となりました。本部から土井会長が出席しました。

◆四月二十一日 江津市役所支部総会

パレス和光

島田 博(建築科S五十一年卒)支部長はじめ会員約十六名の出席。総会では、二十七年・二十八年度の活動(事業)や決算の報告、本年度の活動(事業)計画や予算、支部部則の改正についての審議があり、二年の任期を経て、支部役員の改選が行われ、新支部長として、坂根広晃氏(機械科S五十三年三月卒)

後に校歌・応援歌を熱唱して盛会に終わりました。本部より土井会長・田村 実教頭・倉本事務局員が出席しました。

◆五月十三日

江工会理事会・総会

理事会では、土井正人会長(工化科S三十九年卒)の挨拶から始まり、二十八年度事業・決算報告、役員改選、二十九年度事業・予算審議。江工会会則の改定など、すべての議案が承認されました。

懇親会では、各支部からの出席もあり親交を深めることができました。

◆五月二十七日

関西支部総会

尼崎のホテル「ホッピーン・アミン」で開催された。

総会では橋本支部長挨拶、来賓挨拶、学校の近況報告、事業報告、監査報告が行われました。来賓は関東支部より勝田様、小笠原様、江津支部より横田様、本部より高月事務局長が出席しました。

盛り上がった。

◆六月十日

浜田支部総会

ジョイプラザ

松浦三男支部長(電気科S四十年卒)はじめ多くの会員の出席にて開催された。本部事務局からは、学校行事が重なり出席できませんでした。

◆十月十五日

浜田市議選

浜田市議選挙が行われ、定数二十四名の内六名の江工会員の方が当選されました。

川上幾雄(機械45)、道下 文男(機械45)、岡本 正友(建築46)、永見利久(建築44)、飛野弘二(電気39)、布施賢司(電気50)

◆十一月二十四日

益田支部総会

ちるちるみちる駅前店にて、大石 環(建築科S三十八年卒)支部長はじめ、十四名の方々が出席された。

総会では大石支部長挨拶、事業報告、監査報告がされた。総会に引き続いて、

◆二月十八日

弥栄支部総会

ふるさと体験村

森下政昭(建築科S五十三年卒)支部長はじめ十三名が出席された。総会では森下支部長挨拶、事業報告、監査報告、土井会長挨拶、事務局より学校の活動報告が実施された。また役員、理事の確認が行われ、土曜日夜の総会開催について議論し、「出席がしやす

い」とのことで、来年度からも土曜日夜の総会開催となった。

総会に引き続いて、最年長の小松原監事の乾杯の音頭で懇親会(十五名)が実施され、日本一に輝いた弥栄の生どぶろくを酌み交わし、高校時代の思い出話でおいに盛り上がった会となった。本部より土井会長、高月事務局長が出席。



謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員

中本省五郎(電気・教頭)

会員

- 内田 真(木業30年卒)
- 能美 正(建築30年卒)
- 川村 清美(機械35年卒)
- 仙田 進(工化32年卒)
- 中村 一徳(建築42年卒)
- 亀田 徳明(電気38年卒)
- 河野 隆行(電気38年卒)
- 佐々木 晟(電気38年卒)
- 竹林 静雄(電気38年卒)
- 大草 正(建築31年卒)

編集後記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十二号を発行することができました。

なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡を

## 平成28年度 江工会一般会計 決算書

## 1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	1,061,889	0	1,061,889	1,061,889	0	H27年度からの繰越
2 会費・入会金	853,200	0	853,200	885,611	△32,411	H28年度卒業生と過年度分
3 寄付金	10,000	0	10,000	10,000	0	関西支部より
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	111	0	111	29,395	△29,284	関東支部より 定額貯金残金 名簿収入
収入合計	1,925,200	0	1,925,200	1,986,895	△61,695	

## 2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	鳥根県工業教育研究会への助成
2 会報発行費	150,000	0	150,000	102,600	47,400	会報51号 2000部
3 記念品費	46,200	0	46,200	36,498	9,702	卒業生への記念品(角筒)
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営費への助成
5 通信費	35,000	0	35,000	27,796	7,204	総会案内、会報発送
6 旅費	350,000	0	350,000	100,484	249,516	各支部総会出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	60,000	140,000	各支部総会御祝い等
8 慶弔費	30,000	0	30,000	5,928	24,072	弔電
9 雑費	30,000	0	30,000	6,480	23,520	卒業生への応援広告
10 積立金	0	0	0	0	0	
11 予備費	924,000	0	924,000	0	924,000	
支出合計	1,925,200	0	1,925,200	499,786	1,425,414	

収入総額 ¥1,986,895円 - 支出総額 ¥499,786円 = 差引残額 ¥1,487,109円

## 平成29年度 江工会一般会計 予算書

## 1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	1,487,109	0	1,487,109	1,061,889	425,220	H28年度から
2 会費・入会金	658,800	0	658,800	853,200	△194,400	H29年度卒業予定者 61名分×10,800円
3 寄付金	10,000	0	10,000	10,000	0	支部からの御祝い等
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	91	0	91	111	△20	預金利息
収入合計	2,156,000	0	2,156,000	1,925,200	230,800	

## 2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	鳥根県工業教育研究会への助成
2 会報発行費	150,000	0	150,000	150,000	0	会報52号発行
3 記念品費	42,700	0	42,700	46,200	△3,500	卒業生への記念品61名分
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	会館運営費への助成
5 通信費	35,000	0	35,000	35,000	0	総会案内、会報送送料
6 旅費	300,000	0	300,000	350,000	△50,000	各支部への出席旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	200,000	0	各支部への支援費等
8 慶弔費	30,000	0	30,000	30,000	0	弔電・祝電等
9 雑費	30,000	0	30,000	30,000	0	広告料等
10 積立金	200,000	0	200,000	0	200,000	積立金
11 予備費	1,008,300	0	1,008,300	924,000	84,300	
支出合計	2,156,000	0	2,156,000	1,925,200	230,800	

# 江工学生会報

発行所  
江 工 会

島根県江津市江津町1477  
島根県立江津工業高校内  
電話 (代) 0855-52-2120  
郵便番号 〒 695-0011

## 「社会の変化に

### あがないながら」

会長 土井 正 人

(工業化学科)

昭和三十九年卒業)



平成三十年  
を迎え皆様方  
にはご健勝の  
ことお喜び申  
し上げます。

さて、これからの江津市、  
母校をとりまく環境はどうか  
るものやら……。

この会報を手にはされる皆さ  
んは四十年、五十年前に母校  
を卒業され、今は現役を引退  
された方も多いと思います。

この間、社会も母校の環境  
も大きく変わってきておりま  
す。社会の変化についていつ  
ているのか、今の状況を見る  
と、必ずしも先行しているの  
は思えません。いや、社会の  
変化に追従しているだけなの  
か、学校存続のため四苦八苦  
している状況ではないでしょ  
うか。

江津市は、二〇四〇年の人  
口を市独自で、現在おおよそ  
二万四千人を一万七千人程度  
と見込みます。

高齢化率三十七%台と生産  
人口の減少が最大の課題です。  
皆さん未来の年表つて本を  
読まれたことありますか？

その中で二〇四二年問題が  
日本最大のピンチと言ってい  
ます。

日本の総人口が一億人程と  
なり、その内高齢者(六十五  
歳以上)が四千万人、およそ  
四十%近くがその時を迎え  
る、しかも突然ではなく年々  
そこに向かって行きます。

しかし江津市は、すでにそ  
の域に達しています。日本の  
二十年先を行く先進地なので  
す。

そうした中、母校の存在と  
は何なのか、二十年、三十年  
先を見据えた、石見地域の産  
業を支える人材を育成する、  
確たる教育現場であるべきで  
す。地についた地道な努力し  
かないのです。

県立高校の在り方検討委員

会が、生徒数減の江津、浜田  
の四高校について、一つは探  
求的な学びを推進する普通科  
教育、今一つは企業や大学と  
連携し、専門的職業人を育成  
する専門教育を求めたとあり  
ます。これは、普通高は浜田、  
専門高校は江津と言っている  
と察します。これからどう折  
り合いをつけるかにかかって  
いると思います。

お互いの卒業生会としては、  
母校の存続を願っています。

それには、地元にいる人々の  
声が大きな影響力となりま  
す。遠くの人より近くの人の  
力が大きいのです。地域を支  
えるのは誰なのか、それは地  
元で生活している人なので  
す。江津市の明日を希望ある  
ものとするため頑張りたいと  
思います。

終わりに、本年も皆様にと  
つて、明るい年になること  
を願って挨拶いたします。



## 「現況報告」

校長 井上 雅彦



江工会員の  
皆様には、新  
春をお元気で  
お迎えのこと  
とお喜び申し上げます。平素  
より、本校の教育活動に格別  
のご理解とご協力を賜り厚く  
お礼申し上げます。

今年度は、建築・電気科  
四十名、機械・ロボット科  
三十名、合計七十名の入学生  
を迎えてスタートしました。  
それぞれのコース人数は、建  
築コースが最も多く三十名、  
機械コース二十一名、電気  
コース十名、ロボット制御  
コース九名でした。この傾向  
は昨年度とほぼ同じで、建築  
コースの人氣が続いていま  
す。また、来年度は全ての学  
年で二学科構成となり、学級  
減が完成する年度となりま  
す。

続いて、生徒の進路状況に  
ついて報告します。今年も昨  
年に引き続き求人状況は学校  
に対し追い風が吹いていまし  
た。公務員を含めた就職希  
望者五十一名に対し、県内  
百八十一名、県外六百五十九  
名と多く、県内就職希望者の

割合も徐々に増加し、就職希  
望者の約六十七%が内定をい  
ただきました。また、県外就  
職の内訳は関東地区一名、関  
西地区五名、中国地区十一名  
でした。特に、今年の就職指  
導では、希望者全員(公務員  
を含め)第一志望の会社から  
内定をいただき、学校全体で  
一人も不合格者を出さなかつ  
たことは、私の教員生活でも  
初めてのことでした。生徒数  
減に伴い、学級減となりまし  
たが、少人数の生徒に対し、  
きめ細かな指導ができたこと  
と、各々企業の採用意欲が高  
かったことによる結果だと思  
います。また、進学希望者も  
十二月の段階で、合格発表を  
待つ生徒一名を残し、全員第  
一希望の進学先に合格しまし  
た。進路状況については順調  
な推移を示しております。

教育活動では、今年特に力  
を入れて取り組む事項に「信  
頼される学校」を掲げ、具体  
的な取組として、生徒の学習  
成果発表の場を増やし、それ  
を校外で行うことに年度当初  
から校内及び江津市と調整を  
図っております。毎年校内  
で、生徒・保護者向けに行っ  
ていた三年生の課題研究発表  
会をポリテク島根と合同で二  
月三日に江津市民会館におい

て、広く地域の方々へも公開することが決定しました。今後も、開かれた学校、信頼される学校創りを目指し、改善・改革を行っていききたいと思えます。

さて、昨年度から継続審議されている「今後の県立高校の在り方検討委員会」の提言案が十二月十四日に示されました。詳細は島根県教育委員会HPにて閲覧することができますが、概略をお伝えします。

提言一「地域に根ざした小さな高校ならではの大きな教育効果を全県に広げ、全国に発信できる島根らしい教育の魅力化を進める。」

提言二「生徒の個性、適性、志向性に応じた多様な学びを追究できる、主体的学習を促す高づくりを推進する。」

提言三「提言一、二の実現に向けた教育環境の整備。」です。

特に提言三の項目に「浜田市、江津市の県立高校の方向性」について、望ましいと考えられる例が二つ示されました。

一つ目は「先端的な科学技術やグローバル化に対応し、SGHやSSHの成果を取り入れた。探求的な学びを推進

する普通科教育。」

二つ目は、「石見部の企業や大学等と連携し、六次産業、起業家教育にも力点を置いた地域を支える専門的職業人を育成する専門教育。」です。

最終提言は、約一カ月間パブリックコメントを募集した後、二月二十二日に県教委へ答申される予定です。本校においても、県西部の工業高校として、地域及び県外からの生徒募集を積極的に行い、職業人として育てることでの存在意義を広く県内にアピールしていく考えです。

末筆になりましたが、今後何かわりませず江工会の皆様のご支援やご協力をお願いしますとともに、江工会がますます充実発展されることをお祈りいたします。



# 江工会 支部だより

## 江津支部

### 「江津支部の取り組み報告」

「学校と地域が連携して必要とされる魅力ある学校づくりを」  
事務局長 横田 学



（工業化学科 昭和四十三年卒業）  
県立高校の在り方について答申が出された。当面は

現状のままでと言う玉虫色の回答であったが時間を頂いたとして考え、学校と地域が連携して愛され必要とされる工業高校の魅力づくりに努力して行ねばならない！

### 「昨年度の取り組みについて」

① 二月二十六日(日)

関東支部年次総会出席、  
於…東海大学校友会館  
(霞ヶ関ビル)

② 五月二十七日(土)関西支部  
年次総会に出席、  
於…ポツプインアミンダ  
(尼崎市)

③ 十二月二日(土)クリスマス  
イルミネーションの飾り

つけ、パレットごうつと  
コラボレーション、ペット  
ボトルのリサイクルによるツ  
リーの製作展示

④ 十一月二十七日(月)工業高  
校生とポリテク生の合同企  
業ガイダンス！

於…工業体育館

地元企業二十七社（昨年  
二十五社）参加による石見  
地域産業を支える人材育成  
校として認識を新たにす  
る事と生徒の意識高揚を狙  
って開催した。

⑤ 二月三日(土)産業人材育成  
校（江津工業高校&ポリテ  
クカレッジ）合同の第一回  
研究課題発表会を開催す  
る（生徒・企業・保護者・  
OB会）。

於…ミルキーホール



企業ガイダンスの様子

## 江津市役所支部

### 「江津市の 発展を目指して」

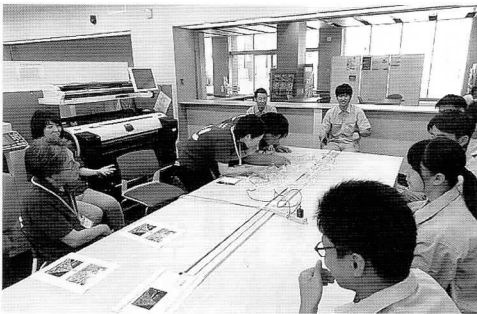
支部長 坂根 広 晃  
(機械科 昭和五十三年卒業)



会員の皆様  
におかれまし  
ては、お健や  
かに新春をお

迎えることとお喜び申し上げ  
ます。

さて、江津市では江津駅前  
を中心とした駅前地区再生整  
備事業が進んでおり、地域を  
担う人づくりや市民活動を促  
進する拠点として公共複合施  
設「江津ひと・まちプラザ・  
パレットごうつ」が昨年の  
夏にオープンし賑わいを見せ  
ています。



課題研究打ち合わせの様子

現在は、駅前周辺の道路の拡幅及び電線類の地中化工事を行っており、歩行者が安心・安全に歩ける空間づくりを進めています。今後は、江津駅前広場の整備計画も予定されており、将来的には、電線のない江津駅前になっていることと思います。また、現市役所庁舎の老朽化に伴い、新庁舎の設計を進めており、平成三十二年の十二月の完成を目指しています。

江津地域拠点工業団地（浅利工業団地）では新たな企業も進出してきており地元志向の若者にとっては雇用の場が広がったことは喜ばしいことだと思えます。

近年、少子化に伴い江津工業高校の入学人数が減少しています。この状況を改善し魅力あるものにするための課題として私が感じていることについて述べたいと思います。

一つ目は、「教育施設」としての寮の整備です。松江高专では、生徒の関心を高めるため、学校管理下の整備の整った寮にするべく努めており、単なる宿泊施設ではなく、「教育施設」として位置づけています。

現在の寮を整備することに、女子生徒や保護者も安

心して工業高校に通わせたいと思うのではないでしょう

か。二つ目は、ポリテクとの連携です。江津市には、職能技術者を育成できるポリテクが在ります。現在は、工業高校とのカリキュラム的な繋がりはありませんが、ポリテクとの連携により「ものづくり」を受け継ぐ高いレベルの職能技術者育成が可能だと思います。

今後の工業高校を石見地域における拠点の専門高校として再整備することも視野に入れて検討する必要があるのではないかと思います。

平成二十九年度、江津市役所職員採用で二名の卒業生が市役所支部の一員となり、その内の一人は、実に二十四年ぶりの高卒採用となりました。地元就職先を確保するために江津市役所が率先して工業高校の生徒を採用していく事は大事だと思います。最後となりましたが、江工会員の皆様のさらなるご活躍とご健勝を祈念いたしますとともに、江津市役所支部への御指導、ご協力をよろしくお願ひします。



歓迎会

浜田支部

「新年を迎えて」

幹事 布施賢司

(電気科 昭和五十年卒業)



新年あけましておめでとうございます。ごさいます。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

私がE科を志望したのは将来何をしたいかではなく、ただ単に手に職をつけられれば仕事に活かすことができ、世間や企業などからも求められやすくなるのではないかと父親のアドバイスと、組み立てや分解が好きで、ゲルマニウムダイオードとバリコンやコイ

ルとイヤホンの四つの部品で出来上がるゲルマニウムラジオを組み立てて、AM放送を聞いたのも動機になったと思います。

朝早い汽車通学、実習や部活、体育祭を頑張った事が昨日のように思い出されます。在学中は無二の親友二人と出会うこともできました。昭和五十年に卒業し、家電メーカー「技術のシャープ」に入社致しました。あれから四十二年、私は随分前に退職しUターンして違う仕事に就いておりますが、シャープものづくりの社訓「誠意と創意」は、今でも私の座右の銘でもあります。

最近日本のものづくり産業も円高で海外に生産拠点を移していた企業も日本国内に回帰しはじめ、中国経済の減速傾向にも影響され復活の兆しを見せています。

この影響で国内企業の求人も向上し、工業高校への求人数もここ数年増加傾向に転じており、我が母校も就職率一〇〇%と聞いて大変うれしく思っております。その一方、少子化が進み、工業高校でも大学や専門学校への進学者が一定程度あるため、企業側、特に地域産業を支える企業では思

うような採用に結びつかないという話も聞いております。

地方創成といわれるなかで、江津工業高校には将来のスペシャリストの育成とともに、地域産業を支える専門的職業人の育成も期待する所であります。浜田支部におきましては、年一回の総会で会員同士親睦を図っております。最後に江工会員の皆様のさらなるご活躍とご健勝を心より祈念いたします。

江工会浜田支部総会



益田支部

「益田支部報告」

事務局長 堀 義 春

(建築科 昭和四十年卒業)



平成三十年の新春をお健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

大石環新支部長になって初めての総会を昨年十一月二十四日に十四名の方のご出席をいただき、盛大に行いました。支部長の本部総会報告の後、懇親会を行い、会員の絆を深めるとともに、強い団結力を確認する機会となりました。

会では、今後の県立高校の在り方、学校再編について、会員からたくさん意見が出ました。これらの意見と、益田市内において県立高校の学校名変更や学校再編等を経験した他校の卒業生の意見等と取りまとめ、益田支部として「パブリックコメント」します。

次に今後の益田支部総会の活性化についてです。事務局として会員名簿を再チェックし、本年度中に会員の皆様のお宅を訪問して、意見交換し、来年度は一人でも多くの方に総会に出席していただけるように考えております。

末筆ながら今後の江津工業高校の存続を願うとともに会員皆様方のご健勝を心から祈り申し上げます。

関東支部

「母校を取巻く社会環境の変化と江工会活動について」

副支部長 勝 田 友 治

(電気科 昭和三十八年卒業)



あけましておめでとうございます。謹んで新年のお喜びを申し上げます。平成二十八年初から母校を取り巻く状況が大変厳しくなっています。その状況を報告すると共に江工会本部、各支部、会員、PTA、地元企業等による母校存続活動を切望しています。

平成三十年度、江津工業高校の存続について当事者の真意を問われますので、江工会本部を中心に皆様の力を結集しようではありませんか。

① 今後の県立高校の在り方 検討委員会について 平成二十八年四月、「今後の県立高校の在り方検討委員会」(以降、検討委員会)

が立ち上げられ、会長に島根大学大学院の肥後教授を含めて合計十二名。平成二十九年四月、メンバー変更・追加があり、総勢十三名になり、今年二月迄、合計十七回の会合が持たれる予定です。島根県のHP: <http://www.shimane.g.jp/> (今後の県立学校の在り方検討委員会) を見て下さい。

毎回の検討委員会の報告で、石見部に於ける県立高校の存続についてはなかなか厳しい報告がされています。検討委員会が最終報告書を提出される前に、より多くの方々より意見を聞いて答申書を出されます。今年一月五日より二月五日の間、学校企画課がパブリックコメントを募集されました。その後、それらを含めて検討委員会から県教育委員会へ答申される予定です。

第一回検討委員会に於いて、浜田市・江津市に於ける県立高校統廃合について厳しい意見が記載されています。その後、平成二十八年九月十三日、浜田市・江津市で地元の意見公聴会が開催されました。その議事録は島根県教育委員

会のHP (平成二十八年十月六日、「検討委員会」の報告書) に詳細が記載、また、江工会会報五十一号にも記載されています。また、第十四回(平成二十九年十月二十日) 専門高校の現状と課題、第十五回(平成二十九年十一月三十日) 資料一:「二〇二〇年代の県立学校の将来像」について資料二:生徒の個性・適正・志向性に応じた多様な学びができる、主体的学習を促す高校作りを推進する。

第十六回(平成二十九年十二月十四日)「今後の県立高校の在り方検討委員会」議事録・提言(案)の内、(二) 専門高校、(五) 浜田市、江津市の県立高校の方向性(五校)について、厳しい指摘が記載されています。ですので是非、読んで下さい。

② 島根県教育委員会の今後 (平成三十年度以降) について 「今後の県立高校の在り方検討委員会」が平成二十九年度で終了になります。その後、平成三十年四月から一年間、島根県教育委員会へバトンタッチされ、最終結論として譲ることになり、平成三十一年度

から運用されます。文部科学省のHPによると、今後の学習指導要領改訂に関するスケジュールに(平成三十一年度から移行期間で実施され、三十四年度から正式実施) なるようです。

※私案:石見地方の工業教育の中心(名実共)として江津工業高校に浜田商業の情報処理科、矢上高校の産業技術科(工業系)を取り入れるべきと考えます。昭和三十年代前半の浜田市・江津市の県立高校は浜田高、浜田水高、江津工業高の三校でした。

③ 外部団体の動きについて (1) 石見を盛り上げよう! 三者(保護者・教職員・企業)フォーラム 主催:島根県西部県民センター・商工労政事務所 協力:島根県高等学校PTA連合会 開催日:開催市及び地元参加高校・平成二十九年十一月二十二日(水)浜田市・浜田高、浜田水高、浜田商高 十一月二十四日(金)益田市・益田高、益田翔陽高、津和野高、吉賀高、益田東高、明誠高

十一月二十八日(火)江津

市(大田高、邇摩高、島根中央高、矢上高、江津高、江津工業高、石見智翠館高)

(2) 江津工業団地の現状と今後の動向

大半の各社が増築工事を計画。現在、二期造成工事及び搬入道路(江津から直進)を工事中。

※上記二項目の詳細は「江工会関東支部のHP」を参照してください。

④ 今までの経過等(江工会会報五十一号の概要)

(1) 母校存続の為・詳細五項目

(2) 地方創成の起点とした母校支援・詳細三項目

(3) 本部会則の見直し提案(平成二十七年から)・詳細五項目

※遠距離通学生徒の問題解決(寄宿舎の新築・改造等を含む)

※その他

⑤ 江津市と石見智翠館高の関係

江津市からの助成金・江の川高校が平成二十一年三月で経営破綻し、翌四月、経営陣の入れ替え(五名)、メイン銀行変更等があり、石見智翠館高として再出発

在も江津市から毎年四千万円以上の補助金が出ています。また、寄宿舎の改造で約八百万円も。市内の県立二校に対しては毎年各校に五十万円と非常に少なく江津市からの助成金の見直しが必要ではと考えます。

江津工業高校が永久に存続することを祈念し、江工会の総力を結集しようではありませんか。

### 関西支部

#### 「江工会に思う」

支部長 橋本 克己

(建築科 昭和四十二年卒業)



会員の皆様、明けましておめでとうございます。

気持ちも新たに、新年を迎えられたことと、お喜び申し上げます。

昨年は、色々な出来事があり、世間をにぎわせました。二つの学校問題、北朝鮮の問題、衆議院議員選挙等次々と、諸問題が重なって起き、世間を騒がせ、驚かせ、啞然とさせられた一年だった様な気がします。

なるか、まだまだ分かりませんが、穏やかな年であってほしいと、願っております。

我が母校も今年中に、検討委員会から検討結果の報告書が、提出されるようですが、どういった結果が出るか、学校再編という環境の中で存続か、統合か、分かりませんが、私たちは存続に向け、各支部とも協力しあって頑張っていけたらと思っております。

関西江工会の総会も、昨年の五月二十七日に「ホップイン・アミング」で開催しました。丁度、学校の行事と重なりましたが、本部より高月事務局長、東京支部より勝田・小笠原 両副支部長、江津支部より横田事務局長の方々にお忙しい中御出席いただきました。

学校の近況報告、存続に向けての取組と現状、変わりつつある江津市内 等々ご報告、ご説明をいただき、参加者も熱心に聞き入っていました。しかし、各支部も同じだと思いますが、高齢化とともに総会に参加される方が、年々少なくなっているのが現状で、寂しさと同様の不安を覚えます。

どうやって進めるべきか、我々に残された課題だと思えます。

最後になりましたが、江工会の会員の皆様方のご多幸とご健勝又学校、本部並びに各支部のご発展を心よりご祈念申し上げます。



### 山口県支部

#### 「江工の継続的發展を祈願」

支部長 大屋 節 雄

(工業化学科 昭和三十八年卒業)

皆様、明けましておめでとうございます。

今春には、三江線廃止が決定されており、NHKでも中井精也の鉄旅で取り上げられております。三月度になると全国各地から記念乗車のため、来場者でごったがえすのではないかと思っております。また江津工業高校のホームページでも地域との交流が積極的に行われており、先生、父兄の方、生徒達が一丸となつて江工の發展のため活躍されている状況がよくわかります。

当山口県支部は、昨年四月十六日に山口市湯田温泉にて支部総会を開催いたしました。この段階で九州支部は解散し山口県支部に合流する事となり、九州支部は下関地区と合併し、関門地区と名称を変更する事となりました。

四月十六日に同温泉での支部総会には、本部より土井会長をお迎えし、こじんまりではありましたが二十一名の参加者で盛大な総会となりました。

総会は、毎年各地区が持ち回りで開催しており、今回の開催は宇部地区の担当です。平成二十九年は関門地区の担当となり、平成三十年四月二十一日に運営委員会を開